

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 28日
2次評価日（課長等）	26年 3月 31日

1 事業名	水道収益事業（3条）	コード	95401
-------	------------	-----	-------

2 担当部課	部等 建設水道部	課等 水道課	作成者 降旗 弘幸
--------	----------	--------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち		
		政 策	安全・安心な暮らしの確保	施 策	上下水道の整備・維持
		予算科目	水道事業会計	業務委託	一部委託
		実施義務	あり（義務的・標準的事业）	国県補助	あり
		根拠法令	水道法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	市民の日常生活に直結する水道水を安全安心かつ安定供給するため、水道施設を始めとした各種施設の計画的な整備、更新を図る。		
目的	対象者	岡谷市民	
	意 図	安全安心な水道水を安定供給する	

5 事業の実施内容	*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
平成25年度の有収水量は5,640,151 m^3 となり、収益的収入804,450,762円に対して、収益的支出は757,431,802円となり、差引き47,018,960円の純利益となった。 収益のうち給水収益は776,722,366円で、前年度比、18,486,339円の減収となった。			
前年度の課題への対応			

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 活動指標（指標名）	市民が1年間に使用した水道水の総水量			単位 m^3
実績値	5,866,945	5,816,105	5,640,151	
*指標の説明	年間給水量			
② 成果指標（指標名）	供給単価			単位 円/ m^3
目標値	138	138	138	138
実績値	137	137	137	
達成度	99.3%	99.3%	99.3%	
*指標の説明	水道水1 m^3 あたりの売上単価			
*目標値の設定方法の説明	当初予算における供給単価（水道料金/年間給水量）			

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	646,903,565	687,033,363	645,431,802	722,577,000
経常経費	646,903,565	687,033,363	645,431,802	722,577,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	112,000,000	112,000,000	112,000,000	112,000,000
正規職員の人数(人)	14.00	14.00	14.00	14.00
③ 合計コスト(①+②)	758,903,565	799,033,363	757,431,802	834,577,000
前年度比		105.3%	94.8%	110.2%
財源	0	0	0	0
一般財源				
内訳 特定財源	758,903,565	799,033,363	757,431,802	834,577,000
* 特定財源の説明 水道料金ほか				
④ 活動一単位あたりコスト	129	137	134	
前年度比		106.2%	97.8%	
⑤ コストに関する補足説明	1㎡あたりの給水原価（水道事業費用-特別損失）/年間給水量			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標（項目7/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 100.0%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 99.3%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 適切な料金水準の検討により、投資効果の高い効率的な事業経営に努める。
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) アセットマネジメントの活用による適切な料金水準の検討により補填財源の確保、企業債の活用、国庫補助事業の採択等、財源確保に努め、適切な時期に施設整備・更新ができるよう取り組む。
改善開始時期	平成26年4月から

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	-------------------------------------------	---